

議題1 みんなが支え合うまちづくり（資金面から支える方法）

A（中山道グループ）

<制度>

- A01 ■ 申請から補助金支給までの日数
- A02 ■ 投票数の上限を決める（最高負担額）

<自治会とのすみ分け>

- A03 ■ 自治会と個人活動のすみ分けが必要 自治会活動が減ってくる

<自助努力>

- A04 ■ 自助努力は行政も市民も責任がある
- A05 ■ 補助金は少なくあくまで自立を・・・しかし、制度上の投票制度は賛成

<審査 投票>

- A06 ■ 投票を上げるために公平な投票かどうか明確にするべき
- A07 ■ 審査会の回数
- A08 ■ 審査会がちゃんと稼働する様になったら投票する必要があるのか
- A09 ■ 審査会メンバーの公募（公正 公明）
- A10 ■ 毎年実施する 効果性の見通しはされているのかどうか
- A11 ■ 審査会をネットで公開（報告会）
- A12 ■ 必要としているグループが審査に通る様なくみはないのか
- A13 ■ 申請する経費の内容項目が大切
- A14 ■ プレゼン資料をうまくまとめる団体が有利になる可能性もある

<支援制度 制度の不明な点>

- A15 ■ 1%と定めることは賛成 その後の効果成果が分かる様にすべき
- A16 ■ 他の事業（中学の建て替え）の予算から比較すると高額 市民の反応を考えると・・・
- A17 ■ マクロ1%=4100万円 金額が多すぎる 最初は少額からスタートしたら・・・
- A18 ■ 用途の目的を明確にする必要がある
- A19 ■ まず自助努力が先で 補助金はその後のこと おんぶに抱っこではダメ
- A20 ■ 1%が多いか少ないか 2%でも市が活性すれば効果が上がるのでは・・・
- A21 ■ 効果性を明確にすべき して欲しい
- A22 ■ ボランティアの資金サポートにも配慮を（活動が苦しい）

<制度より良くするための意見>参加者で合意

A23・審査会メンバーに一般市民がなって 出向くとかプレゼンという方法で行う

A24・投票制度では応援者の数によって変わる（経費もかかる →他の団体に回せる）

<ファシリテーターからの投げかけ>

A25 補助金を出すならどのような活動だったらだせるのか

A26 投票率によって補助金額が 決まる 1人 658 円

A27 メリットとデメリット 心配こと もっと良くなること

A28 制度をもっと良くするには

B（ホタルグループ）

<質問感想>

- B01 ■ この方法は公平だと思う
- B02 ■ 市民活動団体数は？（守山）
- B03 ■ 投票手続きはどうか 投票の仕方は？ 選挙のような？ ●●方法
- B04 ■ 周知方法 たくさんの団体 分かってもらう プレゼン 上手あり 投票方法
- B05 ■ 申請時に（金額 事業内容） たくさん票が集まり過ぎるお金をもらっても困る

<金額>

- B06 ■ 今の制度 市民提案型はどの程度
- B07 ■ 投票率によって変わる 100%=4000万円 10%=400万円
- B08 ■ 1%の金額が低いのではないかと今より低くなる

<団体の周知>

- B09 ■ 市民活動団体に参加してもらうことが大切（投票も含め）
- B10 ■ 各団体に対しても自分投票するので関心・興味が高くなる
- B11 ■ 自治会で団体の資料を回覧→見ないかも
- B12 ■ 団体の1年みせてもらってからこの制度を採り入れては？

<投票について>

- B13 ■ 18歳以上投票権
- B14 ■ 子どもの意見取り上げられる工夫もあった方がいい！！
- B15 ■ 投票率を上げる方法をもっと考える
- B16 ■ 投票権を選挙のように 公平・公正な投票を行うシステムづくり
- B17 ■ 投票を3つの団体に入れられるのは良い
- B18 ■ プレゼン上手な団体が有利ではないか？
- B19 ■ 具体的なプラン 現実可能かどうか <プレゼンの見るポイント> 考えられる

<申請システム>

- B20 ■ 守山が良くなることが目的→新しい事業に絞る
- B21 ■ 新規と今までの事業を分ける
- B22 ■ 申請システムを簡単にしてたくさんしてもらうのが守山には・・・
- B23 ■ 審査も大切

結論：守山にとってたくさんの団体に申請をしてもらえることが良い

[大切なこと3つ]

- ① 多くの団体の申請
- ② 投票率を上げる
- ③ 団体の周知

C (菜の花グループ)

<広報>

- C01 ■ 広報だけでは内容を書ききれないのでは？
- C02 ■ 全団体の内容を伝えると膨大な量になる
- C03 ■ どのくらいの数の団体が参加されるのか？
- C04 ■ 活動のネットワーク化でつながる
- C05 ■ 市民に分かりやすく伝える方法を考えるべき
- C06 ■ 活動内容を目で確認できる方法があるといい
- C07 ■ 有線を使う SNS 人が集まる所 団らん ITC
- C08 ■ 3分間発表会

<審査>

- C09 ■ 申請書類をきちんと作って審査をすることは大事
- C10 ■ プレゼン能力 文章作成能力が優れた団体が残ることになるのでは
- C11 ■ 審査会でどこまで絞り込むのか
- C12 ■ 審査基準はどんな考えでつくるのか？
- C13 ■ 公助 共助 自助 を分ける
- C14 ■ 市民活動に多くの参加者を目的に緩やかな基準
- C15 ■ ハードルが高いと団体が限られる
- C16 ■ 多くの団体が参加できるようにハードルを低く

<投票・支援額>

- C17 ■ 多くの人がやっている組織は多くの票が集まってしまう
- C18 ■ 少ない票で活動がやりづらくなってしまふ
- C19 ■ 小さく活動をしている団体に票がたくさん集まっても資金を使いきれない
- C20 ■ 最低の支援額で設けてもいい (票数が少なくてももらえる金額)
- C21 ■ 2～3次審査まで通れば最低限もらえる方がいい
- C22 ■ 良い活動でも恩恵を受ける人が少なかったら
- C23 ■ 18歳以上が対象だが未成年の活動に対してどう工夫するのか
- C24 ■ 高齢者を家から出て参加できるようにするために大事
- C25 ■ イオンレシートを団体のBOXに入れる (どれに入れたらいいか分からなかった)

<経費>

- C26 ■ 経費はどこまでの内容が認められるのか
- C27 ■ 活動の内容 団体の内容に応じて柔軟な経費の使い方ができるといい

D（メロングループ）

<自治会交付金とのすみわけ>

- D01 ■自治会交付金との関係やすみわけは?? 財源をどうするのか
- D02 ■自治会に属している団体は除外して（自治会の交付金（1億円ちょっと）とは別物のため）
- D03 ■自治会のボランティア団体には自治会交付金があるので、ある程度の条件付けをすべき
- D04 ■制度自体がいろいろあって選んだらよい

<市と団体との距離を近づける>

- D05 ■行政が現場に出向く回数をもっと必要
- D06 ■距離を近づける（市と団体の）
- D07 ■市のHPがオープンになった方がよい 活動団体のリンクがあると良い
- D08 ■HPの更新が活発になれば市の動きも活発に見える
- D09 ■いいと思えば“いいね”をポチッと押せるような制度

<手続きの簡素化>

- D10 ■手続きが面倒
- D11 ■“責任をもつ”というのが面倒で広がらない
- D12 ■もっと手続きが簡単になれば広がる可能性はある
- D13 ■投票もインターネットなど多様な方法を

<しっかり使われているかのチェック体制>

- D14 ■しっかり使われているのかチェック 必ず後のフォローが必要 可視化
- D15 ■HPでみんなが見れるようにすれば良い
- D16 ■審査会でのチェック機能をしっかり

<制度内容>

- D17 ■団体の構成員は5人より少なくても良い活動をされているところがある
- D18 ■活動期間は1年 半年?
- D19 ■組織票でも、それでもやりたいことであれば、それも良いのでは
- D20 ■投票するとすれば動員をかける 投票率が上がる＝組織票が出てくる
- D21 ■まずはやってみる